

廃プラスチックを 再資源化する。



日本の2021年廃プラスチック総排出量は824万tで、有効利用率は87%、その内訳は「モノからモノへ生まれ変わる」マテリアルリサイクル21%、「モノから原料へ生まれ変わる」ケミカルリサイクル4%、「ゴミ焼却時の燃料に利用する」サーマルリサイクル62%となっています。

ケミカルリサイクルに世界が注目。

SDGsへの関心の高まりもあって、油化装置を利用するプラスチックの再資源化が注目を集めていますが、国内のケミカルリサイクルの利用率がわずか4%なのが現状です。



日本も再資源化に積極的。

国内でプラスチック資源を循環させる「プラスチック資源循環法」が2022年4月に施行され、事業者によるプラスチックの排出抑制や廃プラ再資源化の促進が求められています。



廃プラスチックをプラスチックへ。

プラスチックの主原料となっている「ナフサ」を作る為には原料になる石油が必要になりますが、石油の代わりに廃プラスチックから生成される重油を利用する事で再資源化を実現します。



廃プラを油化、 廃プラ分解油をナフサに。



廃プラを分解油にする 廃プラ油化装置



当社の廃プラ油化装置はバッチ式熱分離式を採用しており、廃プラを加熱炉に投入400℃まで熱し気化、コンデンサーで冷やされ液化し、精製濾過装置で濾過されて重油が精製されます。

※当該装置は「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」の交付対象となります。

加熱炉の管理が簡単



加熱炉に投入する前に選別・粉砕などの前処理が必要になる装置もありますが、当社の油化装置は加熱炉に投入するだけ。しかも加熱炉が傾いて投入がしやすく、重機などを使わず人の手で投入することができ、気化後に残るカーボンの排出や清掃が簡単に行えます。



小規模



大規模な設備だと施設を作る場所が限定されますが、構造がシンプルなため装置が小型になり、事業者の敷地内でも設置ができます。

低コスト



当社の油化装置は前処理となる廃プラの選別や粉砕装置、廃プラを投入する装置などが不要いため設備投資が低コストとなります。

低炭素



小規模で低コストの油化装置であれば事業所ごとに装置の設置が可能となるため、廃プラの輸送コストや輸送時の炭素排出の抑制になります。

持続可能な廃プラ再資源化を目指して

シンプルで低コストの設備により持続可能な廃プラの再資源化を目指し、プラスチック資源の循環と低炭素社会の実現に取り組んでいます。



株式会社ワークソリューション

〒399-0422 長野県上伊那郡辰野町平出2000-1

TEL. 0266-44-1230 FAX. 0266-44-1231 URL. www.worksolution.co.jp